

工事見学を終えて

富山県立桜井高等学校  
土木科 丸田 和人

9月18日に黒部河川事務所主催の工事見学に行ってきました。まずバスの中で事務所の沿革などの話を聞きました。下新川海岸は浸食によって海岸が失われてきていることがわかりました。昔は浜だったところも堤防になっていた、家も海辺から移転していかなければならない状況になりました。原因は、黒部川の流路の固定、河川からの供給土砂量の減少、海岸構造物の設置による漂砂の遮断に起因すると考えられるそうです。工事現場に着くと工事について説明がありました。その日が最終工事だったのでとても幸運でした。離岸堤と副離岸堤についての説明を聞きました。離岸堤は海の沖合から押し寄せる波を小さくしてエネルギーを弱め、越波、浸水、浸食を防止するとともに、沖へ流出しようとする砂の動きを制御する施設で、副離岸堤は、離岸堤と離岸堤の開口部からの波の進入を防ぐための施設です。副離岸堤の設置で開口部のうちあがり解消されるので、この構造を考えた人は頭がいいなと思いました。離岸堤を設計するときは50年に一度、来襲する可能性がある波を対象としていて、この波を計画波高と呼んでいるそうです。しっかり計算して離岸堤が作られていたので安心しました。

最後に陸に積んである被覆ブロックを見に行きました。とても大きくて、頑丈でしっかりと海岸を守ってくれそうなブロックでした。工事見学は初めてでとてもいい体験ができたのでよかったです。ほかにもダムや土木作業をしている場所も見てみたいです。